

国語科における表現能力の向上を目指した指導の工夫

ー グループ活動を中心にして ー

学習開発コース（10220914） 星 川 沙 織

人が自分の考えを他者に伝えたり，他者の意見を聞いて自分の考えを深めたりすることは生きていく中で求められる力の一つである。では，これから社会に出て行く生徒が自分の考えを表現できるようになるためにはどのような手立てをし，どのような学習が必要であろうか。本研究では教職専門実習Ⅱでのグループ活動を用いた授業を通して，自分の考えを明確に表現するための授業構成および学習指導の在り方について考え，その効果について検討していく。

[キーワード] グループ活動 協同学習 考えの明確化 学習課題 表現能力

1 問題の所在と方法

(1) 問題の所在及び研究の背景

これまで高校での講師経験から生徒の考えを引き出し，表現させることの難しさを感じてきた。生徒の考えに広がりや深まりがみられず，言語化まで至らない様子も見受けられた。

言語による表現能力の向上は社会生活で自己の立場を明確にし，自分の意思を主張できる人間になる上で必要なことである。鶴田清司（2008）は PISA2003 年調査での無回答の例を挙げ，「論理的に考える力が不十分であるといわざるを得ない」とし，日本の現状を「大学・高校入試とも関わって，子どもたちの中に早く正解を見つけない，早く答えを知りたいという意識が強すぎる」と指摘している。自分で考えることをせず，決められた答え，正解を暗記するだけの学習は読解力の低下だけではなく，自分の考えを表現する力の育成にも大きく影響する。そこで鶴田は『答えを見つけ出すこと』から『考えさせること』にシフトしていく必要がある」としている。

では，生徒一人一人が考え，その考えを深め，自信を持って表現するためにはどのような授業構成が良いか。佐藤(2008)は「私たちは他者との協同をとおして，多様な考えと出会い，対象（教材）との新たな出会いと対話を実現して自らの思考を生みだし吟味することができる。」としている。私自身の体験として司書教諭講習を受けた際，グループごとのブックトーク作りを通して，新しいアイデアや発想の発見，一人の発表では得られな

い達成感や自信を得た。そこで，グループでの学習目的と活動内容を明確にし，様々な考えを交流させることで自分の考えを表現することに想定以上の深まりがあるのではないかと感じた。

(2) 研究の目的

生徒が自分の考えを深め，明確に表現するためにどのような指導の工夫ができるのかグループ活動での学びあいを通して手立てを考える。

(3) 研究の方法

教職専門実習Ⅱより，高校での授業実践を行い，生徒の様子，学習プリントの記入状況，授業後に行った生徒のアンケート調査をもとに検証する。

2 先行研究の検討

(1) 協同学習

ジョンソン,D.W/ジョンソン,R.T/ホルベック,E.J. (2010) は「協同学習は，生徒たちがともに課題に取り組むことによって，自分の学びとお互いの学びを最大限に高めようとする，小グループを活用した指導方法である。」としている。そして，「座席を変えるだけでは協同学習とはいえない。生徒をグループに分け，協同して取り組みなさいと言うだけでは，協同とは呼べないし，自然と学びが協同的になるわけでもない。」として①互惠的な協力関係（肯定的相互依存）②個人の役割責任③活発な相互交流④社会的技能の訓練⑤グループの改善手続きという5つの基本要素を挙げている。

(2) 学習活動について

杉江（2001）は学習活動について3つの基本仮

定（人間関係の重視、動機づけの重視、一貫性と統合性の重視）を挙げて次のように述べている。

「児童生徒は自身の成長を周りが本気で願っているという確信がもてたとき、そして自身の成長が相手の支えとなっていると確かに感じる事ができたとき、もっともうまく学習に動機づけられる。」とし、「学習指導で大切なのは指導者の活動ではなく、学習者がどれだけの学習活動を行ない、どれだけの習得をしたかである。」と、生徒の学習活動を中心とした指導の在り方を挙げている。そして、単にグループ活動を導入するだけでなく、学習者を視点にした課題の工夫が重要であることを説いている。

3 教職専門実習Ⅱでの実践と結果

県立X高校において国語総合（現代文）の授業を1年生の3クラスで行った。山田詠美の小説『海の方の子』を教材とし、「文章表現から主人公の考え方や心情の変化を読み取る～作品をどう読むか～」を単元の目標とした。グループで考えを交流し、自己の考えを明確にすることを目指した。

授業では最初、主人公が発した「私、哲夫君と結婚するような気がするな」という一言に注目させた。その後、主人公に関する課題を一時間につき一題取り上げ、学習の課題を明確にして授業を行った。また、最初に個人で考える時間を設け、その後、グループでの交流を取り入れた。具体的な指導計画（4時間）は以下のとおりである。

表 1. 指導計画

| |
|---|
| <p>単元名：文章表現から登場人物の変容を読み取る ～ 作品をどう読むか ～ 国語総合1年 教材 『海の方の子』 山田詠美 授業計画（4時間）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 主人公の人物像をまとめる。 2 主人公が取った行動の意図について探る。 3 主人公の心情や考え方の変化を読み取る。 4 自分が作品を通して感じたことを班毎伝え深め合う。 （工夫した点） <p>＊班構成は学力的な分け方をせず座席ごとで分けた。 ＊学習の課題は授業の際に板書、プリントを使って説明する。 ＊最初に個人で考える時間を設けた。 ＊4時間目でのグループ発表における条件</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発表者に対して前の発表者が質問する。 ・全員の発表後、一つの話題について班で深める。 |
|---|

次に、実践したグループ活動に対する評価及び具体的な指導の工夫とアンケート結果について分析する。

(1) 実践したグループ活動に対する生徒の評価

今回のグループ活動に関しての評価で「1 良い」とする回答が全体で81%であった(図1)。この結果を見ると、今回のグループでの学習が効果的にできていたと生徒が評価していることが分かる。生徒の感想では「様々な交流が出来てよいと思う」「表現能力の向上に役立つ」という意見があり、活動が機能的にできていたことがわかる。一方、「2 必要ない」、「3 どちらともいえない」とする生徒が19%いた。その理由としては「個人で考える時間がなくなる」「班の中で同じ意見が出たため、あまり自分のためにならなかった」とする意見があった。

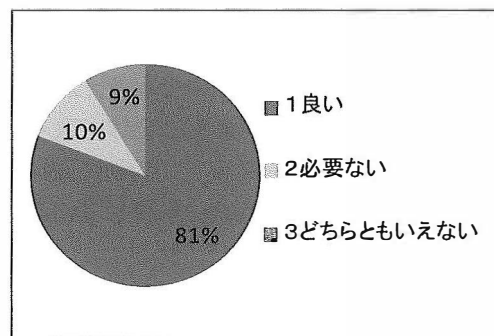


図1. グループ活動に対する評価

また、グループ活動に対する評価と関連して、「グループでの話し合いによって考えが深まった、変わったりしたか」という質問に関しても「1 かなり深まった」「2 深まった」と回答した生徒を合わせると88%もの生徒が深まったと評価していることがわかる(図2)。

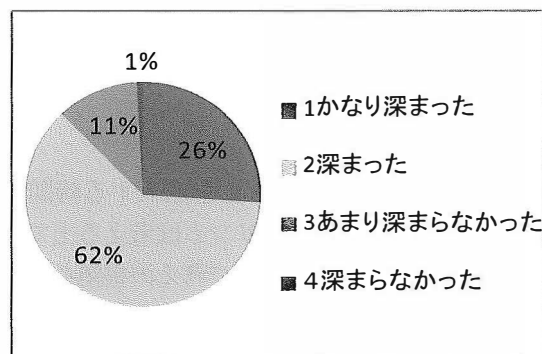


図2. グループ活動によって自分の考えが深まったり変わったりしましたか

(2) 指導の工夫とアンケート結果

① 学習課題の明確化

今回の実習では、学習の課題を明確にすることを意識して授業を組み立てた。まず、主人公に注目し、本文に即して主人公の何を読み取るのかといった学習の課題を全体で確認した。そして、グループで情報を交換し、まとめるというグループ活動の見通しを示してからグループ活動に入った。最初に学習の課題を全員で確認したのはグループ活動が活動ありきで学習がないものにならないようにするためである。各課題・活動内容を板書、プリント、口頭で一時間一題ずつ掲げ、全体に促した。その結果、大多数の生徒がグループでの交流を通して何を考えるのか意識し、集中して取り組んでいる様子が見られた。A組ではグループ毎の発表を聞いてから質問する生徒もあり、自分自身の考えと比較して、さらに考えを深めようとしていた。このクラスは全員で課題に取り組もうとする意識が高く、3クラスの中でも考えが深まったとする回答が多かった(図3)。全体で取り組むという課題意識を持ち、グループ活動に入れるかが考えを深めようとする意欲に影響しているといえる。

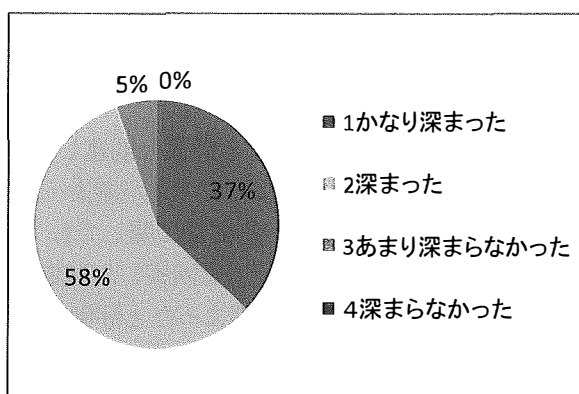


図3. グループ活動によって自分の考えが深まったり変わったりしましたか (A組)

② 考えの明確化

今回は個人で自分の考えを記入する時間を設けた。そのため、授業プリントは考える上で必要な情報を抜き出させることで考えの根拠を示すことができるようにし、授業では取り組み方の例を示した。グループでの発表は、自分の考えを持った上で発表順序を決め、必ず一度は発表する環境を作った。この活動により、これまで授業中の発

言に消極的であった生徒も自分の考えを発言することができた(図4)。グループ活動について消極的な反応を示していた生徒もグループでの話し合いで自分の考えを述べ、同じ班員が印象深かったことに取り上げている様子が見られた。さらに、4時間目では生徒の発表に対して質問をするように指示した。時間はかかっていたが、自分の考えがどの部分を根拠としているのか、本文に即して答えようとする姿勢があった。全体発表でも生徒は自信をもって答えていた。

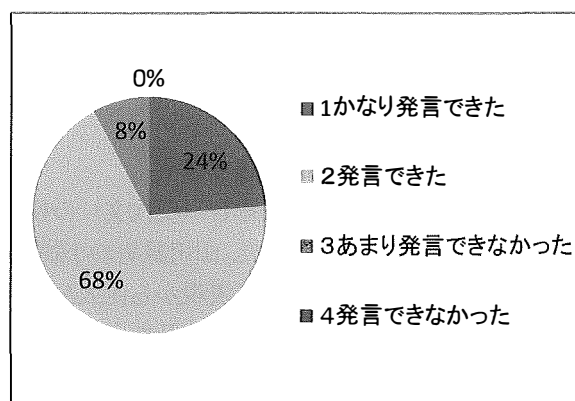


図4. グループ活動で自分の考えを伝えることができましたか

また、学習プリントには「自分の考え」と「グループでの情報交流部分」、「交流の結果」が見えるような構成とした。発表する際に自分の考えを確認するとともにグループでの交流を通してどの情報から自分の考えが変容したのかを生徒自身がわかるようにした。生徒のプリントでは、最初の読み取りよりもさらに自分の考えを深めている記述があった。授業後のアンケートでも発言しやすかった、考えを深めることができたとする感想が見られた(表2)。

表2. 学習プリントに対する感想

《アンケート》

- ・自分と異なる意見の中に自分の見解を深めるポイントがあつていいと思った。
- ・グループで意見を交流して他の考えも取り入れられるのでよいと思う。自分と他人を比較できる点で良かった。
- ・人の意見を聞くと新しい発見をすることが出来てより深まったのでよかった。
- ・他の人の意見と自分の意見を比較できてよいと思う。
- ・何についてまとめればいいのかわかりやすかった。
- ・何について話せばいいのかわかりやすかった。

③ 活動内容に関しての課題（アンケートより）

生徒のアンケートでの感想を見ると、「新しい発見ができた」「今後もこういう活動があればいい」とする記述が多かった。グループでの交流をより機能的にするための要望や交流時間の延長に関する感想（表3）があることから、グループによる交流が積極的に行われていたといえる。

表3. グループ活動に関する感想

《アンケート》

◎活動内容に関して

- ・しっかりと各々が自分の考えをもっているならばとてもいい活動だと思う
- ・他の人の意見を間近で聞けるのはいいと思った
- ・もっと活発に発言できればよかった
- ・意見は発表できたが、交流となると難しい
- ・考えを書いていない人は全然書けていないからうまく話し合いにならなかった
- ・班員の積極性によって差が出る
- ・情報量の差が課題
- ・真面目にしない人は他の人の回答を鵜呑みにする

◎時間配分に関して

- ・交流の時間を長くしてほしい
- ・他の人の考えを聞けるのは良かったが、話の前にもう少し個人の考えをまとめる時間を長く取ってほしかった
- ・考えが深まったりするが自分でじっくり考える時間が少なくなるのでそこが欠点だと思う。

4 考察

今回の実践から得られたことは次の三点である。まず、指導の工夫として学習の課題と活動の見通しを明確にすることが大切であることが分かった。次に、グループ活動で交流するには考えたことを発表できる機会を保障することが必要だということである。さらに、学習プリントは学習課題と自己の考え及びその根拠が示してあり、他者比較・自己比較のできる内容とすることが重要である。

この実践により、「課題を全員で考えよう」「自分の考えを深めよう」という意欲が向上し、自分の考えを発表することにつながった。考えが明確になり、グループでの交流及び全体での発表において生徒の発言に自信が感じられた。表現能力の向上に効果があったといえる。また、取り組み方

の例を提示することで考えを表現しやすくなった。このことから、具体的に例を示すことも表現能力の向上につながるといえる。

また、今回は一時間につき一つの課題を考えたことで集中して課題に取り組む姿があった。さらに学習意欲を保ち、表現能力の向上を目指すには単元を貫く課題を設けることも必要である。今回の実践で考えれば、作品についての読み取りマップを生徒全員の意見を取り入れて単元末に作成するなどの課題の提示が考えられる。授業の最初に提示することで、各課題の重要度が増し、表現能力の向上につながると考える。

時間の確保に関しては、学習課題と活動内容がわかっていることが必須条件だといえる。そのうえで、個人でまとめる時間やグループ活動の時間配分を考えなければならない。生徒がどの程度考えがまとまっているか、どこでつまづいているかを教師が把握し、交流の際の机間支援としてどのように生徒とかがかわるか検討する必要がある。

5 到達点と課題

(1) 到達点

学習の目的とグループでの活動内容を目で見える形に示すことにより全体で取り組む意欲につながり活動が円滑になった。また、発言機会を設け、自分の考えを持ちグループで交流することにより表現内容を深めることにつながった。

(2) 課題

情報を取捨選択し、その情報をもとに自分の考えを形成するには学習及びその支援をどうするか先行論文で分析する。また、グループ内での発表や交流の仕方とその時の教師のかかわり方について実践例の検討を重ねる。

引用・参考文献

- ジョンソン,D.W./ジョンソン,R.T./ホルベック,E.J.
『学習の輪 学びあいの共同教育入門 改訂新版』2010
佐藤学『学校の挑戦 学びの共同体を作る』小学館 2008
杉江修治「バズ学習の理論と実践」2001
鶴田清司『「読解力」を高める 国語科授業の改革—PISA 型読解力を中心に—』明治図書 2008